≪難病を正しく理解していただくために≫

令和８年１０月改訂

クローン病とは　どんな病気？

クローン病は、主に若年者にみられ、消化管に炎症や潰瘍（粘膜が欠損すること）が起こる病気です。口腔から肛門にいたるどの部位にも発症する可能性があります。特に小腸末端部が好発部位で非連続性の病変（病変と病変の間に正常部分が存在すること）を特徴とします。

腹痛、下痢、体重減少、発熱、肛門病変（切れ痔や潰瘍、膿がたまるなど）などがよくみられる症状です。

患者さんはどのくらいいるのですか

わが国のクローン病の患者数は特定疾患医療受給者証交付件数でみると 1976 年には 128 人でしたが、令和５年度には約 52,100 人となり増加傾向が続いています。10 歳代～20 歳代の若年者に好発し、発症年齢は男性で 20～24 歳、女性で 15～19 歳が最も多くみられます。また、患者数の割合としては男性が多く、男性と女性の比は約２：１となっています。

クローン病の主な症状



腹痛



下痢・血便



体重減少



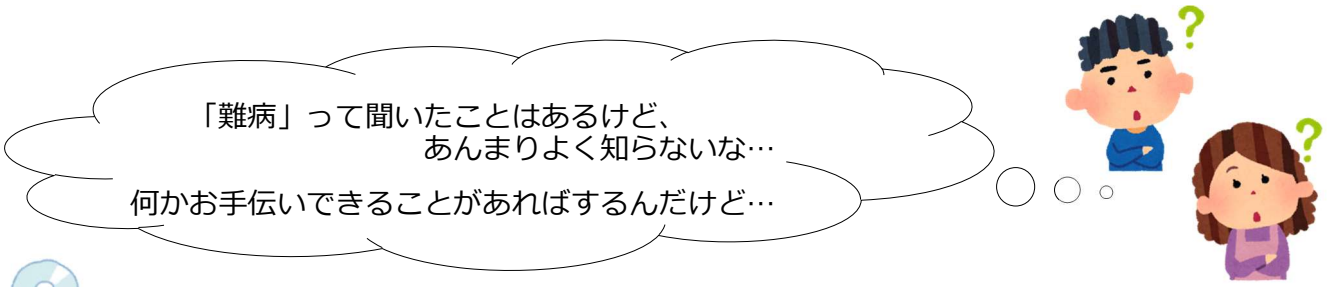
発熱

最近の研究では、遺伝的な素因を背景として、食事や腸内細菌に対して腸に潜んでいるリンパ球などの免疫を担当する細胞が過剰に反応し病気の発症、増悪にいたると考えられています。

難病の患者さんのなかには、援助や配慮を必要とすることが外見からは分かりにくい方もおられますので、困っているようであれば、援助や配慮をお願いします。

裏面もご覧ください

知ってください！「難病」のこと





難病は、発病の原因が明らかになっておらず、治療方法が確立していない病気なんだ。
発症割合は低いけれど、誰もが発症する可能性があるんだよ。

「難病の患者に対する医療等に関する法律」において、

難病は**「発病の機構が明らかでなく、かつ、治療方法が確立していない希少な疾病であって、当該疾病にかかることにより、長期にわたり療養を必要とすることとなるもの」**と定義されています。



難病の患者さんの症状は様々です。長期の療養生活を必要としますが、適切な治療等を行い管理を継続することで、在宅での療養生活や就労、就学が可能な疾病もあります。

○難病のうち、国が指定する疾病に該当する方に対して、法律に基づき医療費の自己負担の一部を公費で負担する制度があります。（指定難病　医療費助成事業）

＊対象となる疾病などについては、「難病情報センター」のサイトにて確認できます。
http://www.nanbyou.or.jp/

＊詳しくは、大阪市の難病対策に関する大阪市ホームページにてご確認ください。

https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000074083.html

なお、小児の方へは、「小児慢性特定疾病　医療費助成制度」もあります。

ご存知ですか？ヘルプマーク

難病の患者さんのなかには、ヘルプマークをお持ちの方もおられます。

ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方が援助を得やすくなるよう作成されたマークです。ヘルプマークを身に着けた方を見かけた場合は、電車・バス内で席をゆずる、困っているようであれば声をかけるなど、思いやりのある行動をお願いします。


（赤地に白の十字とハート）

電車・バスの中で、席をおゆずりください	駅や商業施設等で、声をかけるなどの配慮をお願いします	災害時は、安全に避難するための支援をお願いします

お問合わせ先　：　大阪市健康局保健所管理課　　電話　06－6647－0923